



名瀬小だより

6月号

学校教育目標

友だちがすき まちがすき
ともに学び かがやく名瀬っ子

平成30年 5月 31日
横浜市立名瀬小学校
校長 増田 伸子

だいいっぽ
あいさつはコミュニケーションの第一歩

ふくこううちょう あしがき やすし
副校長 芦垣 康志

名瀬小学校の5月の生活目標に「元気な挨拶をしよう。」がありました。この目標を達成するために児童のみなさんは各学年や各クラスでがんばるポイントを決めて実践していました。「明るく大きな声で…」「相手の目を見て笑顔で…」「はつきりと…」「自分から大きな声で…」等々。気持ちのよいあいさつをするための大変なポイントをめあてに込めて取り組んでいました。校内では元気な挨拶をしてくれる子どもたちが増えて、「私も日々元気をもらっています。さらに気持ちのよいあいさつが広まるといいなと感じます。

あいさつをすることはいったいなぜ大事なのでしょうか。あいさつにはさまざまなよい効果があります。まず、あいさつをすることで気持ちのよい一日のスタートが切れます。あいさつを交わすことで笑顔になり、気持ちも前向きになります。心と体はつながっています。いやなことがあった時に笑顔を作つて大きな声であいさつをしているともやもやした気持ちがいつの間にか晴れることができます。挨拶という言葉の語源は「一挨一拶（いちあいいちさつ）」で、禅宗の問答に由来した言葉なのだとそうです。「挨（あい）」は心を開いて近づく、「拶（さつ）」も同様に、迫る・近づくという意味があります。つまり「心を開いて相手に近づく」という意味があるのでそうです。また「おはよう」の語源は「お早いですね。ご機嫌はいかがですか。」という思いやりの意味を込めた言葉なのです。「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」等の普段のあいさつも相手への思いやり、敬意、感謝の気持ちがこめられた言葉だそうです。将来、社会に出て活躍していく子どもたちに身につけさせたい力として、『生きる力』があります。これは社会の中でいろいろな人と関わりながら情報を収集し、問題解決を図り、より良く生きていく力と定義付けられます。よりよい人間関係を築いていくことは生きる力を身に付けることになるのだと思います。人と関わりをもつときはほとんどがいさつから入ります。あいさつはコミュニケーション力を身に付けるための第一歩なのではないでしょうか。

まずは身近な人とのあいさつから始めてみましょう。朝起きて家族の皆さんとのあいさつはもちろん、登校班の友達、毎朝皆さんの登校を見守り声をかけてくださっている学援隊の方々との元気なあいさつで、一日がスタートできるといいですね。